

4-5 水生生物のコアゾーンづくり (生椿：モリアオガエル、水生昆虫、里山、湧水)

生椿の自然を守る会代表で、トキの野生復帰連絡協議会会長の高野毅さんが指導します。モリアオガエルが産卵する木、サンショウウオ、ヤマアカガエルが産卵する場所、ドジョウが1年中いる場所など、トキとたくさんの生きものが住める場所をつくります。

■生椿地区 (生椿の自然を守る会)

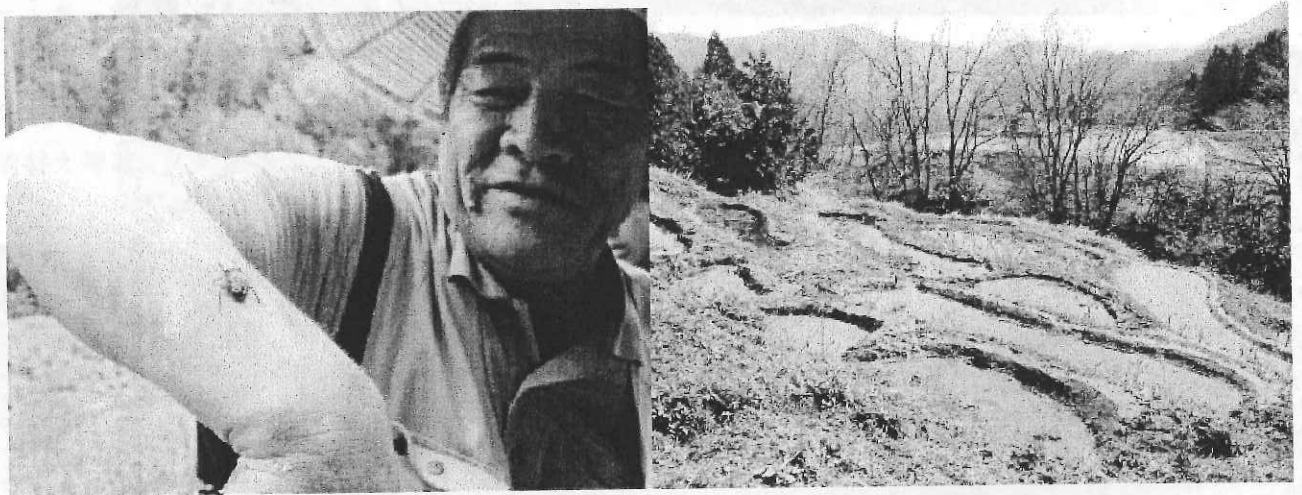
3-5 参照。

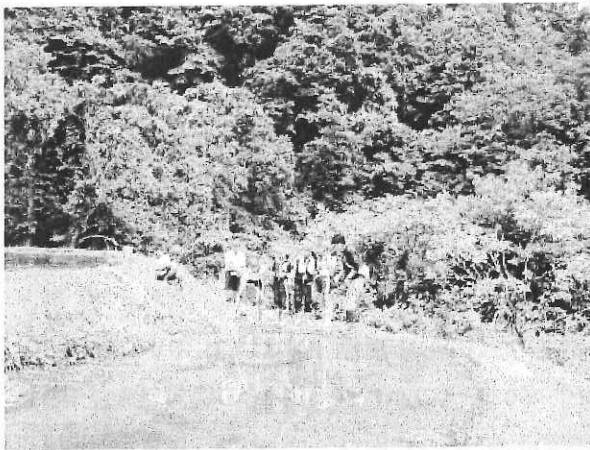
かつて野生のトキが舞い降りていた生椿地区は、現在無人ですが、田んぼや畑などは耕作されています。しかし、休耕地も多いため、平成12年より、高野毅さんのよびかけで多くのボランティアの協力によりビオトープづくりがはじめられました。今も、毎年少しずつビオトープの面積が増えています。

■コアゾーンづくりの内容

作業は、新たなビオトープづくり、すでにあるビオトープの畦直し、草取り、草刈り、水辺の掃除、田んぼの草取りなど、季節、人数、子どもたちの経験によって様々なパターンがあります。ビオトープを拡張するために伐採され、玉切りした丸太を運び、生きものすみかをつくるなどの作業もあります。

所要時間：3～5時間 (往復の時間、着替え、休憩、観察なども含む)





高野さんが知り尽くしている生椿の自然。アケビを見つけたり、ユキツバキを紹介したり、季節ごとに様々な生きものを見つけては紹介してくれます。

ビオトープづくりも、生きものの気持ちを説明しながらの指導には定評があります。